

ICT活用授業実践報告書

【 H24年度3年目研修 】

実施学年	4年	実施教科 (科目)	国語	実施日	H24. 11. 13
単元名	アップとルーズで伝える				
本時の内容 (項目)	写真と文章の対応を見つけ、筆者が「何を」「どのように」説明しているのかをとらえ、説明のしかたについて考える。				
本時の目標	写真と文章をつなげて読もう				
授業場所	4年2組 教室	ICT活用時の 授業形態	一斉学習・個別学習・グループ学習		
ICT活用場面	導入・展開・まとめ・他()	ICTの主な 活用者	教師・生徒		
活用するICT 機器	電子黒板				
ICTを活用する 目的・ねらい・予想される 効果	本教材は、写真と文章が対応するように書かれており、それぞれの写真を説明している文を探すことで、より深い読み取りができる。そのため、写真の提示が大変重要となってくる。電子黒板を使用する目的は、より大きく見やすく写真を提示すること、写真に印を書き込み、どの文章と対応しているのか分かりやすく示すことである。				
児童生徒の情報活用能力を 育てる指導場面・指導内容					
利用するコン 텐츠名・サ イト等					
参考にしたサ イト・文献 等					
事前の準備	電子黒板・国語デジタル教材				

指導計画（授業の展開）	<p>1. 音読 本時学習する段落を音読する。(①～③段落)</p> <p>2. めあてのたしかめ 写真と文章をつなげて読もう。</p> <p>3. 一人読み 写真と文がつながっているところを探し、一人読みプリントに書き込む。</p> <p>4. 仲間読み 1段落の写真を見て、つながる文を探す。 「両チームの選手たちは、コート全体に広がって、たがいにボールを回し、体を動かしています。」→電子黒板に写真を写し、文章とつながる写真の部分に教師が印をつけていく。 「広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」といいます。ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」といいます。」→二つの写真を電子黒板で横並びに表示し、アップとルーズの違いを比べる。</p> <p>5. まとめ 広いはんいをうつすとり方を「ルーズ」といい、ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」という。</p>	（※情報モラルの指導内容）
ICTを活用した授業時の教師側（指導上）の留意点	<p>全児童に見やすいように、プロジェクタの位置や角度に留意する。 また、児童にも書き込みができるように、高さを考え、必要であれば踏み台等を準備する。 その場になって動作不良が起これないように、事前準備をしっかりと行っておく。</p>	
ICTを活用した授業時の児童生徒の反応	<p>挿絵を大きく示すことができたため、全員がよく見えるようにすることができた。 見やすいためか、どの子も興味津々で授業に臨むことができた。 文とつながるところを挿絵から探し出したのだが、画面に印をつけることができたので、児童が、なんとなくではなくて具体的に「ここがつながっている。このことを言っている。」と示すことができた。</p>	
ICTを活用した授業後の評価（実践の手応え）	<p>視覚的効果が大きく、児童の興味を引くことができた。興味を持つことで、自然に多くの子が授業に入り込み、挙手が格段に増えた。 印をつけることで、曖昧な指し示しではなく、具体的な指し示しをすることができた。 大きく表示ができるため、後ろの席の児童にも見やすくなった。</p>	
今後の課題	<p>今回はICT機器の活用をするための授業を行ったが、4年生という発達段階をふまえて、情報モラルにもしっかりと取り組んでいかなければいけないと感じた。 近年のアイパッド・ 아이폰の普及により、自宅で手軽に使用している児童がいる様子。「パスワード」などの言葉も知っているため、今後近いうちに情報モラルの授業を行いたいと思った。</p>	

※情報モラルを指導したときは、その指導事項及び指導内容を記入する。